

公益財団法人豊田理化学研究所 所長あいさつ

2020年豊田理化学研究所創立80周年の大きな節目を機に、豊田家三代に伝わる想い：豊田佐吉「障子を開けよ、外は広いぞ」、豊田理研創設者豊田喜一郎「自由研究、基礎学理の確立、閑却されがちな分野の重視」、前理事長豊田章一郎「次代を担うグローバル人材育成 Creation, Challenge, Courage (3C) 精神」、を再確認し、これまで以上に世界に発信する・未来をつくる・活力ある豊田理研、いわば「新生豊田理研」に向けた新たな制度設計に取り組んできました。昨年は、それらの新しい制度の運用を開始した「新生豊田理研」初年、ともいうべき年でした。本年はそれらを全てしっかりと推進してまいります。



玉尾皓平 所長

若手育成「スカラー制度」の主な強化策は、①「異分野若手交流会」参加者間の交流から生まれる「スカラー共同研究」の選抜・再編を経る最長6年間の継続支援制度の導入、②スカラーの中から特に選ばれた新進気鋭の研究者を支援する「ライジングフェロー制度」の創設です。これらの新制度・強化策によって、豊田理研スカラーに選ばれることが、これまで以上に若手研究者のキャリアアップに効果を発揮し、ステータスとなることを目指しています。

グローバル若手人材育成のための「海外大学院進学支援制度」の支援対象者「Toyota Riken Overseas Predoctoral Fellow」は4年目を迎える現在までに8人が採択され、オックスフォード大やシカゴ大などで学位取得を目指しています。学位取得まで継続的にしっかりと支援し、学位取得後は国際舞台での活躍に期待しています。

世界トップレベルの実績をもつ定年退職教授を支援する「フェロー制度」は「シニアフェロー制度」と名前を改め、定年退職少し前から支援を開始し、従来の豊田理研@長久手で一人で研究するスタイルから出身研究機関等での研究継続を数年間強力に支援する方式に大きく舵をきります。現在は新旧制度の過渡期で、各フェローにとって最適の研究環境として豊田理研と出身研究機関が混在した状況になっています。フェローの皆さんには、コロナ禍と制度過渡期が重なり、種々ご不便をおかけしているかとも思いますが、そんな中でも研究に真摯に取り組んでおられる姿には敬意を表したいと思えます。

コロナ禍も3年が経過し、会議やイベントは対面とオンラインのハイブリッド方式のウイズコロナ運営が定着しましたが、「異分野若手交流会」などは泊まり込み対面方式の良さに異論をはさむ余地はなく、早くコロナ禍が終息し、あるべき姿に戻ることを願ってやみません。

本年も、豊田理研がわが国の物質科学研究分野を中心に人材育成・人材ネットワーク構築と新分野創成の拠点として科学技術の発展に貢献すべく、しっかりと取り組んでいく所存です。引き続きのご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

公益財団法人豊田理化学研究所

所長 玉尾 皓平